

最適なグローバル资源配置を模索する 仕組みに関する研究

地域共創学部
地域づくり学科
教授

横井 克典



研究シーズの紹介

現在、多くの日本企業が複数の国・地域に拠点を設立し、グローバル展開を推し進めている。一方で、そうして资源配置が多様化すればするほど、それを全体としていかに最適にしていくのかがますます問われるようになっていく。

しかし、これは極めて困難な作業である。時間の経過に伴う市場の変化、そして、それが促す拠点の成長という連鎖に

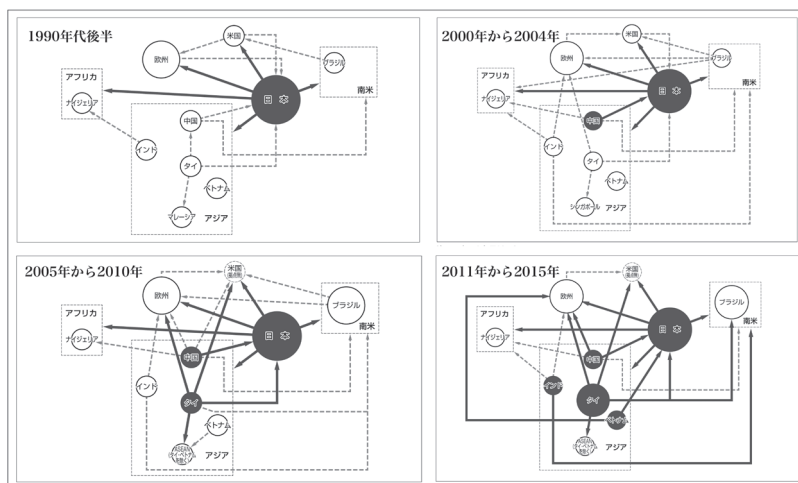
よって、最適な资源配置のありようが変わっていくからである。

本研究では、日本二輪車企業の国際生産分業を事例として、主にフィールド調査をもとに、企業が最適な资源配置を追い求めていく過程と、それを実現するための組織内部の仕組み（意思決定のあり方）の解明に取り組んでいる。



- ・ 捉え方の変化
- ・ 资源配置を調整する仕組みの社内整備

- 最適な资源配置は、長期にわたって遂行するプロセスと捉えることが重要です。そして、この営みを続けていく中では、自社の将来構想が有する長期的な視点を確保しながら、各国・地域の市場・拠点の変化に応じていくための仕組みを社内に整えることが求められます。



左図は、本田技研工業（二輪事業）の国際生産分業の形成プロセスです。

国際生産分業の調整の仕組みのもとで、その時々状況と構想をアップデートし、長期的に最適な形を追求してきました。

出所：横井克典〔2018〕『国際分業のメカニズム—本田技研工業・二輪事業の事例—』同文館、3～4ページ、図序-1～4を借用して作成しました。

期待される活用シーン

- 海外拠点の役割が重複している、拠点間の連携が取れていない。
- 現地でのビジネスのスピードが早すぎて、海外拠点の内実をつかみにくなってきた。



海外拠点と本社への聞き取りをもとに、原因を考えることができます。



- 本社・海外拠点ともに日々のビジネスが忙しく、自社の海外ビジネスの全体像が不鮮明になってきた。



海外拠点と本社への聞き取りをもとに全体像を整理し、フィードバックできます。

